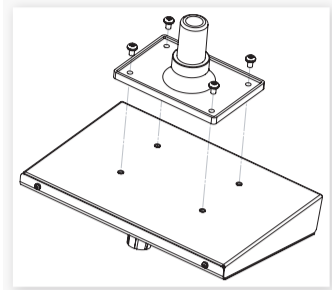
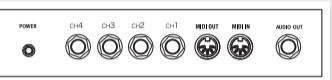


1 スタンド・ホルダー、接続 スタンド・ホルダーを取り付ける

スタンド・ホルダーを取り付けると、ほとんどのクランプに直接セッティングすることができます。ホルダーの直径は23ミリです。



接続する



オーディオ・アウト

オーディオ・アウトは、モノラルのライン・レベルで、ジャックは標準フォーンです。

電源を入れる時は、本機を必ず最初に入れ、次にアンプ等の機器の電源を入れます。電源を切る時は、その逆を操作をします。

本機のサウンドは、音量とピッチが急激に変化する音色が入っていますので、音量にご注意下さい。

MIDIイン

MIDIパッドやシーケンサーを使用する時にこの端子に接続します。また、本機のOSアップデート時にも使用します。

MIDIアウト

プログラム・ダンブ機能を使って本機のデータをコンピュータなどに転送する時に使用します。(TRIG INPUT)にパッドを接続した際の演奏もMIDIデータとして出力します。

トリガー・インプット CH1~4

アナログトリガー式のドラム・パッドなどを接続します。ジャックは標準フォーンです。パッド以外にも様々な信号に対応します。パッドを叩いた時に、本機の音が二重に鳴ってしまったり、反応が遅い時はTrig Type、Inp Thres、Inp Sensの各パラメーターで調節します。詳しくは次章、第3章をご覧ください。

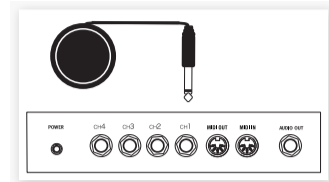
電源

付属ACアダプターをご使用下さい。付属A Cアダプターがご使用に出来ない場合は、12V、250mA、センター・プラス(外径φ5.5、内径2.1mm)のものをご使用下さい。

ユーザー・マニュアル

2 使い始める パッドを接続する

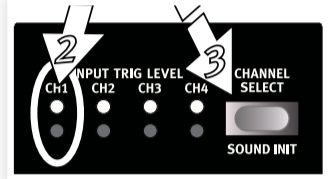
パッドを(TRIG INPUT)に接続します。標準フォーン・プラグの他に、標準ステレオ・プラグも使用できます。



本機のファクトリー・サウンドは多くの場合、CH1~4の順でバスドラム、スネア、ハイタム、ロータムになっています。

インプット感度を調節する

- パッドを叩き音を聴きながら、各チャンネルのトリガー・レベルLEDを確認します。叩く強さでLEDが反応します。
- 最も強く叩いた時に、LEDが赤く、少し長めに点灯するのが適正な状態です。



- (CHANNEL SELECT) ボタンを押して、緑のLEDが点灯しているチャンネル(パッドが接続されている)を選択します。この時、そのチャンネルがエディット可能な状態になります。

- (SHIFT) ボタンを押しながら(INP SENS) ボタンを押すと、ボタンの上のLEDが赤く点滅し、パネルにプリントされている2行目のパラメーターがエディット可能な状態になります。



- パッドを叩きながらダイヤルを回して感度を調節します。

スレッシュドを調節する

パッドをドラムセットなどにセッとし、パッドを叩いていなくても振動などを拾い、不必要な時に音が出てしまう場合は、このスレッシュドを調節します。

- 不必要な時に音が出てしまうチャンネルを選択します。
- (SHIFT) ボタンを押しながら (THRES) ボタンを押します。



- パッドを叩きながらダイヤルを回して不必要な音が出なくなるまでInp Thresの値を上げていきます。
- 通常の演奏をし、レスポンスに変化がないかどうかを確認します。

デモ演奏を聴く

- (PROGRAM)、(CHANNEL SELECT)、(TRIG) ボタンを同時に押すとデモ演奏がスタートします。
- ダイヤルを回すと、デモ演奏を続けながら音色が切り替わります。
- (SHIFT/EXIT) ボタンを押すと演奏が止まります。

MIDIチャンネル・ラーン機能

この機能を使うと本機の各チャンネルにそれぞれMIDIノート・ナンバー、MIDIチャンネルを自動的に割り当てることができます。MIDIコントローラーで本機をコントロールしたい場合に便利です。

- MIDIパッドやMIDIコントローラーを本機のMIDIインプットに接続します。
- (SHIFT) ボタンを押しながら(MIDI CH) ボタンを押して、ダイヤルを回してディスプレイに「[L r n]」を表示させます。
- システム・パラメーターをエディットしている時は、(MIDI CH) ボタンの上にあるLEDが点滅します。
- MIDIコントローラーからMIDIノートなどのメッセージを送信すると、受信したMIDIチャンネルがディスプレイに表示されます。

本機は一度に1つのMIDIチャンネルのみを受信します。

MIDIノート・ラーン機能

- MIDIパッドやMIDIコントローラーを本機のMIDIインプットに接続します。
- (CHANNEL SELECT) ボタンを押してチャンネルを選択します。
- (SHIFT) ボタンを押しながら(MIDI NOTE) ボタンを押して、ダイヤルを回してディスプレイに「[L r n]」を表示させます(127の次にあります)。
- 2で選択したチャンネルを鳴らしたいMIDIパッドを叩きます。すると、叩いたMIDIパッドのノート・ナンバーが本機のディスプレイに表示されます。
- 2~4の操作を繰り返して3つのチャンネルで繰り返しして各チャンネルにMIDIノート・ナンバーを割り当てます。
- 割り当てが済みましたら(PROGRAM) ボタンを押してシステム・エディットモードから抜けます。

4つのモードについて

ディスプレイに「P」が表示され、そこに番号が表示されている状態が**プログラム・モード**です。ダイヤルで99種類のプログラムを選択できます。

ディスプレイの下に2行で並んでいるLEDのうち、1つまたは2つが点灯している状態が**エディット・モード**です。ダイヤルを回してパラメーターの設定を変更できます。

(SHIFT) ボタンを押しながら(ROW SELECT/SOLO EDIT) ボタンを押すと**ソロ・エディット・モード**に入ります。その時選択していたチャンネルの音のみを聴きながらエディットが行えます。

ディスプレイの下に2行で並んでいる下のLEDが点滅している時は、**システム・モード**に入っている状態です。横1列に並んだ黒いボタンの下にあるパラメーターを選び、ダイヤルを回してエディットできます。

音色エディットの基礎

本機は4チャンネル構成で、4つの異なるサウンドを同時に鳴らすことができます。各チャンネルごとに音色を構成するパラメーターがあります。

本機のサウンドは、**ノイズ、トーン、クリック**という3つの構成要素を組み合わせて作りをします。各構成要素には、それぞれ独立したパラメーターがあります。

- 本機のパネル右下コーナーにある (TRIG) ボタンを押すと、選択していたチャンネルの音が一定の強さで発音します。
- 本機にパッドを接続している場合は、パッドを叩いた強さに応じて強弱が付きます。
- (CHANNEL SELECT) ボタンを繰り返し押し、音色エディットをしたいチャンネルを選択します。
- 各チャンネルの音色パラメーターは、2行に並んでいるLEDの下にあるボタンを押して選びます。
- パラメーターは、ボタンを押すだけで選択できます。これによりエディットモードに入り、選択したパラメーターの設定がディスプレイに表示されます。
- 2行で並んでいるパラメーターの下の行を選択したい場合は、パラメーターのボタンをダブルタップするか、本体パネル左にある(ROW SELECT) ボタンを押します。
- ダイヤルを回すと、選択したパラメーターの設定が変わります。
- エディットしたいチャンネルを変更する場合は、(CHANNEL SELECT) ボタンを繰り返し押します。

レッド・パラメーターについて

横1列に並んだボタンのうち、赤字でプリントされているパラメーターが、**レッド・パラメーター**です。これを含むボタンを押した場合、2つのパラメーターの設定が同時に表示され、そのうちの左側がレッド・パラメーターの設定です。

- レッド・パラメーターの設定を変更するには、そのパラメーターのボタンを押しながらダイヤルを回します。

ソロ・エディット機能について

ソロ・エディット機能は、ノイズ、トーン、クリックのパラメーターを選択している時のみ使用できます。この機能により、選択したチャンネルのみのサウンドに集中して音色エディットが行えます。

- (SHIFT) ボタンを押しながら(ROW SELECT/SOLO EDIT) ボタンを押してソロ・エディットモードに入ります。



- パッドを叩くか、(TRIG) ボタンを押してエディットをするチャンネルの音を聴きます。
- パラメーター「チャンネル・レベル」を選択した時は、全チャンネルの音が聴こえます。
- (PROGRAM) ボタンを押すとソロ・エディットモードから抜け、プログラム・モードに戻ります。

メモリー・プロテクト

本機は、工場出荷時の状態ではメモリー・プロテクトがオンになっています。この状態でプログラムを保存することはできません。この設定は、システム・モードに入ってから変更できます。

- メモリー・プロテクトがオンの場合、プログラムを保存しようするとディスプレイに「[P r t]」と表示されます。

- (SHIFT) ボタンを押しながら(PROG DUMP) ボタンを繰り返し押し、ディスプレイに「[P On]」を表示させます。
- ダイヤルを回して「[P Of]」の設定にします。これによりプログラムの保存が行えます。
- 設定が済みましたら、(PROGRAM) ボタンを押してシステム・モードから抜けます。

プログラムを保存する

プログラムがエディットされると、ディスプレイ内のプログラム番号の右にドットが点灯します。

この状態で別のプログラムを選択すると、エディットした音色が失われてしまいます。エディットした音色をキープしておきたい場合は、プログラムの保存を行います。

- (SHIFT) ボタンを押しながら (PROGRAM/STORE) ボタンを押します。
- すると、ディスプレイが点滅します。



3 Nord Drumリファレンス パネルの各部の名称と機能

マスター・レベル

本機の最終的な音量をコントロールします。このノブでプログラムごとの音量設定はできません。



(PROGRAM/STORE) ボタン

プログラム・モード以外のモードに入っている場合、(PROGRAM) ボタンを押すと、そのモードから抜けられます。プログラム・モードでは、ディスプレイに「P」が表示され、それに続きプログラム番号が表示されます。本機では、99個のプログラムを保存できます。



- プログラムをエディットして、保存が済んでいない場合、ディスプレイの右側にドットが点灯します。

ディスプレイ

プログラム・モードでは、「P」に続いて1~99のプログラム番号が表示されます。



音色パラメーターを選択すると、**エディット・モード**に入ります。この時、ディスプレイでは選択したパラメーターの設定が数値や記号で表示されます。また、パラメーターによっては2つの設定値を左右に分けて同時に表示するものもあります(レッド・パラメーター)。



(SHIFT) ボタンを押しながら(ROW SELECT/SOLO EDIT) ボタンを押すと、**ソロ・エディット・モード**に入ります。この時、(SOLO EDIT) LEDが点滅し、エディットしているチャンネルの音のみを聴くことができます。

(SHIFT) ボタンを押しながらパラメーター・ボタンの下にプリントされているシステム・パラメーターを選択すると**システム・モード**に入ります。

インプットトリガー・レベルLED

各チャンネルの状態をインプットLEDが表示します。緑のLEDが点灯している場合、そのチャンネルがエディット中であることを表示します。



上の赤いLEDは、トリガー・インプットに強い信号が入力されると短い間点灯します。最も強く叩いた場合には点灯が少し長めになります。

(CHANNEL SELECT) ボタン

このボタンを押してエディットするチャンネルを選択したり、(TRIG) ボタンを押して発音させるチャンネルを選択します。

- 直前にこのボタンでチャンネルを選択していない場合、パッドを叩いてエディットするチャンネルを選択することも可能です。また、このボタンでチャンネルを選択していた場合は、(PROGRAM) ボタンを1度押すことでパッドによる選択が可能になります(QSECBP™)。



サウンドを初期化する

(SHIFT) ボタンを押しながら(CHANNEL SELECT) ボタンを押すと、そのチャンネルの音色セッティングが全て初期化されます。

(SHIFT/EXIT) ボタン

(SHIFT) ボタンは、他のボタンと併用して様々な機能にアクセスする時に使用します。(SHIFT) ボタンを使ってアクセスできる機能は、各ボタンの下に印刷されています。(SHIFT) ボタンはまた、保存操作をする直前に保存を中止する時にも使用します。

ダイヤル

ダイヤルは、プログラムを選択する時や、選択したパラメーターの設定を変更する時に使用します。

(TRIG) ボタン

(TRIG) ボタンは、選択したチャンネルのサウンドをパッドなどを使用して発音させる時に使用します。また、(SHIFT) ボタンを押しながら(TRIG) ボタンを押して、(TRIG) ボタンを押した時のペロシティをダイヤルで設定することも可能です。

パラメーター・ボタン



パラメーターは、1列に並んだ8つのボタンで選択します。これらのボタンを押すと同時にエディットモードに入ります。

ボタンの上に2行に並んでいるパラメーターのうち、上の行のパラメーターを選択している時に、パラメーター・ボタンをダブルタップすると下の行のパラメーターを選択することができます。また、(ROW SELECT) ボタンを使って同じ操作を行います。

パラメーター・ボタンを押しながらダイヤルを回すと、レッド・パラメーターのエディットが行えます。

ノイズ・パラメーター

ノイズ・セクションには、様々なタイプのノイズが内蔵されています。ノイズ・フィルターやスイープ・パラメーターなどを使用してノイズ・サウンドを加工することができます。

カラー・パラメーターでノイズ音のキャラクターをコントロールします。数値が0で最も暗い音色、数値が大きくなるに従って音色が明るくなります。

レンジ: 10~10

フィルター・タイプ

ノイズ・フィルターは、高域成分をカットするローパス・フィルターです。数値が低いと暗い音で、高いと音が明るくなります。

もう1つのパラメーターはフィルター・タイプです。7種類のタイプが内蔵され、数値が上がるとレゾナンスが強くなり、音のキャラクターが変化します。このパラメーターのエディットは、(FILTER) ボタンを押しながらダイヤルを回すことで行えます。

フィルター・レンジ: 0~99

タイプ・レンジ: 1~7

スイープ/タイム

スイープ/タイム・パラメーターは、ノイズ・フィルターの開き具合を時間の経過と共に変化させるものです。この時のフィルターの開き具合をスイープ・パラメーターで設定します。このパラメーターは、ペロシティに対応しています(叩く強さで変化します)。

タイム・パラメーターは、フィルターが開いていく時間を設定します。このパラメーターの設定は、後述しますディケイの設定と比例関係になります。このパラメーターのエディットは、(SWEEP) ボタンを押しながらダイヤルを回すことで行えます。なお、このパラメーターは最大値に設定するとディケイの設定値と同じになります。

スイープ・レンジ: 0~10

タイム・レンジ: 0~9

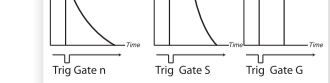
ディケイ/ゲート

ディケイ・パラメーターは、ノイズ音の長さを設定します。数値が高いほど長い音になります。

ゲート・パラメーターは、ノイズ音が出た瞬間から音量が徐々に下がっていく「n」、一定時間音量を保った後に音量が下がっていく「S」、一定時間音量を保ち、その後急激に音が切れる「G」の3種類から選択できます。このパラメーターは、(DECAY) ボタンを押しながらダイヤルを回してエディットします。

ディケイ・レンジ: 0~50

ゲート・レンジ: n, S, G



ミキサー・パラメーター

ミキサー・セクションでは、ノイズ、トーン、クリックの各セクションのサウンドを自由にミックスできます。また、各チャンネルの音量もこのセクションで設定します。



トーン、ノイズ、クリック

チャンネル内のトーン、ノイズ、クリックの各セクションの音量を設定します。

レンジ: 0~10

チャンネル・レベル

各チャンネルの音量を設定します。

レンジ: 0~99

トーン・パラメーター

トーン・セクションでは、音のボディになる部分を作ります。豊富な種類の波形を選び、このセクションのパラメーターで自由に加工できます。

ウェーブ

様々な種類の波形が内蔵され、それぞれ特徴的なサウンドです。ハッキリとしたピッチがあるものもあれば、ピッチ感の薄い、金属的なサウンドのものもあります。「An」はアナログ・シンセ的な波形で、「b」はドラム的な音、「c」はパーカッションなサウンドです。

レンジ: An 1~3, b1~9, c1~5

フィルター・パンチ

フィルターはローパス・フィルターです。数値が最大の99の時点で完全に開放状態、逆に0の状態完全に閉じた状態です。パンチは、音が出るアタックの瞬間にほんの短い音を追加することができるパラメーターで、ペロシティに対応しています。

フィルター・レンジ: 0~99

パンチ・レンジ: 0~9

スイープ/タイム

スイープ/タイム・パラメーターは、トーン・フィルターの開き具合を時間の経過と共に変化させるものです。この時のフィルターの開き具合をスイープ・パラメーターで設定し、ペロシティに対応しています。

タイム・パラメーターは、フィルターが開いていく時間を設定し、後述しますディケイの設定と比例関係にあります。このパラメーターのエディットは、(SWEEP) ボタンを押しながらダイヤルを回します。最大値の9でディケイの設定値と同じになります。

スイープ・レンジ: 0~10

タイム・レンジ: 0~9

ディケイ/ゲート

ディケイは、トーン・セクション全体の音の長さを調節します。数値が高いほど長い音になります。

ゲート・パラメーターは、音の鳴り終わり方を、音が出た瞬間から徐々に音量が下がっていく「n」、一定時間音量を保った後に最初に音量が下がっていく「S」、一定時間音量を保った後、瞬間的に音が鳴り止む「G」の3タイプから選択できます。ゲートのエディットは、(DECAY) ボタンを押しながらダイヤルを回します。

ディケイ・レンジ: 0~50

ゲート・レンジ: n, S, G

ピッチ

トーン・セクションのピッチを調節します。半音の半分のステップで調節ができ、ディスプレイにはMIDIノート・ナンバーで表示されます。数値が69.0の時のピッチはA=440Hzになります。

レンジ: 11.0~98.5

バンド・レンジ/バンド・タイム

バンド・パラメーターを使用することにより、ピッチを徐々に変化させることができます。バンドには2つの方向があり、設定値がマイナスの場合はピッチが徐々に上がり、プラスの時は徐々に下がります。ピッチの変化量はバンド・レンジで調節します。また、このパラメーターはペロシティに対応しています。

バンド・タイムは、ピッチが徐々に変化する時間を設定するパラメーターで、ディケイ・パラメーターと比例関係にあります。エディットは(BEND) ボタンを押しながらダイヤルを回します。設定値が9の時にディケイと同じ長さになります。

バンド・レンジ: -9~30

バンド・タイム: 0~9

クリック・パラメーター

クリック・セクションは、音が出たその瞬間にごく短いパーカッションな音をプラスできるセクションです。



タイプ

クリックには様々なタイプがあり、それぞれ異なるキャラクターがあります。「n」タイプはノイズ波形を使用したもの、「c」タイプはノイズにアタックをプラスしたもの、「t」タイプはよりピッチ感のあるクリックです。

レンジ: n1~n9, c1~c9, t1~t9

ディケイ/ゲート

ディケイはクリック・セクション全体の音の長さを調節します。数値が高いほど長い音になります。

ゲート・パラメーターは、音が出た瞬間から音量が徐々に下がっていく「n」、一定時間音量を保ってから早めに音量が下がっていく「S」、一定時間音量を保ち、その後急激に音が鳴り止む「G」の3タイプから選択できます。ゲートのエディットは、(DECAY) ボタンを押しながらダイヤルを回します。

ディケイ・レンジ: 0~20

ゲート・レンジ: n, S, G



- ダイヤルを回さずに、そのまま (PROGRAM/STORE) ボタンをもう1度押すと、エディットした音色が同じ番号に上書き保存されます。

別の番号にプログラムを保存する

- (SHIFT) ボタンを押しながら (PROGRAM/STORE) ボタンを押します。この時、ディスプレイが点滅を始めます。
- ダイヤルを回して新たに保存したい番号を選びます。
- もう1度 (PROGRAM/STORE) ボタンを押すと、その番号にプログラムが保存されます。

シフト・パラメーター

パラメーターを本機の下にプリントされているパラメーターは、(SHIFT) ボタンを押しながらそれぞれのボタンを押してアクセスできます。



左から2つ (COPY, PASTE) 以外は本機のシステム設定などに使用します。

システム設定は本機の電源を切ってもその状態をキープすることができますが、例外としてローカル・オン/オフだけは本機の電源を入れた時点で常にオンになります。

コピー

コピー機能は、選択したチャンネルの音色データなど全ての設定をコピーする時に使用します。コピーしたデータは、別のチャンネルにペーストすることができ、別のプログラムにペーストすることも可能です。コピーしたデータは、本機のメモリー・バッファに一時的に蓄えられ、次にコピーをするか、または本機の電源を切るまでその状態をキープします。

ペースト

チャンネルの設定をコピーし、ペーストする先として他のチャンネルや別のプログラムのチャンネルを選択してからペーストを実行すると、コピーした設定が選択したペースト先の上書きされます。同じ設定を複数のペースト先へペーストすることも可能です。

プログラム・ダンブ

(PROG DUMP) ボタンは、メモリー・プロテクト、ダンブ・ワン、ダンブ・オールの3つの機能があります。これらの機能には、(PROG DUMP) ボタンを繰り返し押し、アクセスします。

メモリー・プロテクトは、本機の工場出荷時の状態ではオンになっています。この機能は、プログラムを誤って上書き保存してしまわないための機能です。

ダンブ・ワンは、その時選択していたプログラムのデータを本機からMIDIシステム・エクスポート・シブ・データとして送信する機能です。この機能を使って、プログラムごとのバックアップをコンピュータなどに保存したり、プログラムのデータを本機を所有しているユーザー間でやり取りすることも可能です。送信は(PROGRAM) ボタンを押すと開始され、その時ディスプレイには「[ONE]」と表示されます。

ダンブ・オールは、本機にメモリーされている99個のプログラム全てのデータをMIDIシステム・エクスポート・シブ・データとして送信する機能です。(PROGRAM) ボタンを押すと送信が開始され、その時ディスプレイには「[ALL]」と表示されます。

ダンブ機能を使った送受信の操作手順などは、裏面の「MIDIの操作を行う」をご参照ください。

MIDIチャンネル

MIDIチャンネルにはMIDIチャンネル、ローカル・オン/オフ、プログラム・チェンジ・シープ・オン/オフの3つの機能があります。これらの機能へは(MIDI CH)ボタンを繰り返し押ししてアクセスします。

MIDIチャンネル：本機が受信するMIDIチャンネルを設定します。レンジの最後にあるのはラーン機能で、入力したMIDIデータのチャンネルを記憶し、以後そのチャンネルで受信させることができる機能です。

レンジ：1～16、Off、L r n

ローカル・オン/オフは、ディスプレイでは[L On]または[L Of]と表示されます。ローカル・オフは、本機をシーケンサーで演奏し、ノートデータ等をエコーバックする際に使用します。

レンジ：L On、L Of

プログラム・チェンジは、オフ、センドのみ、レシープのみ、センド/レシープ両方から選択できます。本機のプログラムをMIDIコントロールで切り替えたい場合は、レシープのみ、またはセンド/レシープ両方にします。

レンジ：P Of(オフ)、P S(センドのみ)、P r(レシープのみ)、P Sr(センド/レシープ両方)

MIDIノート

本機の4つのチャンネルは、それぞれ独自のMIDIノートデータで発音させることができます。

MIDIラーンモードは、このパラメーターのレンジの最後にあります。これは、MIDIノートデータを受信すると、そのデータを記憶し、以後そのノートデータで発音させることができる機能です。ノートデータを受信すると、そのノートナンバーがディスプレイに表示されます。

レンジ：0～127、L r n

トリガータイプ

(TRIG TYPE)ボタンには、2つのパラメーターが入っています。1つはトリガータイプ、もう1つはダイナミクス・レスポンスカーブです。2つのパラメーターには、(TRIG TYPE)ボタンを繰り返し押してアクセスします。

トリガータイプ：様々なドラムパッドやトリガー番号に対応したプリセットを内蔵しています。

トリガー出力には、ドラムパッドの種類やメーカーによって様々なタイプがあります。お使いのパッド等に合ったタイプをお選び下さい。

パッドからのトリガー信号のレベルは、インプットトリガーレベルLEDに表示されます。緑のLEDは、トリガー信号が入力されていることを表示します。赤のLEDは、トリガーレベルが最大レベルから6dB以内に達した時に瞬時的に点灯し、最大レベルになると点灯の時間が少し長くなります。パッドを叩いた時のレスポンスを最適化するために、最も強く叩いた時に赤のLEDが少し長く点灯することを必ずお確かめ下さい。

以下の表は、パッドやアコースティックドラムに取り付けたトリガーユニットに対応したプリセットをまとめたものです。もちろんリス

P41	Ethno	Steely Melodic	Drums
P42	Real	Soft Acoustic	Drums
P43	Real	Tubular Bells & Triangle	Perc
P44	Ethno	Ultra Tribal Dance	Perc
P45	Retro	HeaHihat	Kit
P46	FX	Click Gate and Vinyl	Kit
P47	Real	Double Snare	Kit
P48	Real	Hells Bells	Perc
P49	Real	Rototsthile	Drums
P50	Retro	Melodic Technocrat	Kit
P51	Real	Dull Dusty	Drums
P52	FX	Retrophile Gated Noise	Drums
P53	Ethno	Real Cuba Conga Cola	Perc
P54	Retro	Retrograd	Drums
P55	FX	GasaGate	Perc
P56	Real	Clap Trap	Drums
P57	Real	Krimsonite	Drums
P58	Real	Serious Decay	Kit
P59	Ethno	Dry Tribe	Drums
P60	FX	Cinematikino	Perc
P61	FX	Toy Ambulance	Kit
P62	Retro	Neophile	Drums
P63	Retro	Stabby Hip Hop	Kit
P64	Real	Retro Noise Reverb	Drums
P65	Retro	Ulam Spiral	Drums
P66	Retro	Sawkas Jungle Heat	Kit
P67	Retro	Knick Knock Knack	Drums
P68	Real	Bright Click Brush	Drums
P69	Retro	New Romantic Tight	Kit
P70	FX	Intergalactic Battle	Perc
P71	Retro	Nosampled Drum	Drums
P72	Retro	Poor Tone	Kit
P73	FX	Clicks&Pops	Drums
P74	FX	Fat Gated Chattanooga	Drums
P75	Real	RetroReal Snap Snare	Drums
P76	Ethno	Slitz Box	Perc
P77	Ethno	Real Tommy Steel	Perc
P78	FX	Macro Sweeper	Kit
P79	FX	Darwins Sex Machine	Kit
P80	Real	Apparatorium	Drums
P81			
P82			
P83			
P84			
P85			
P86			
P87			
P88			
P89			
P90			

NORD DRUMユーザーマニュアル OS V.1 X

ト以外のパッドでも演奏できます。お使いのパッドと相性の良いものをお選び下さい。

トリガータイプ	パッド、ドラム
Pd1	ローランド製ラバーパッド (PD8 等)
Pd2	ヤマハ製パッド(TP65 等)
Pd3	メッシュパッド
Ac1	キック、スネア向けトリガー
Ac2	ハイ、ミッドタム向けトリガー
Ac3	ロータム向けトリガー

△ローランドおよびヤマハは、各社が所有する商標であり、Clavia社とは一切関係ありません。これらの商標は、本機の機能を説明するためのみ使用したものです。

レンジ：Pd1、Pd2、Pd3、Ac1、Ac2、Ac3

ダイナミクス：(TRIG TYPE)ボタンをもう1度押すと、このパラメーターの設定がディスプレイに表示されます。「Dn1」はパッドを叩く強さ(ベロシティ)に対してニアな特性です。「Dn2」は、より弱めの強さでも最大レベルに到達できるレスポンスです。

レンジ：Dn1、Dn2

インプット・スレッシュولد

パッドをドラム等と同じハードウェアや、その他のインプットデバイスにマウントしている場合、振動により不必要な時に本機の音が鳴ってしまう際にこのパラメーターを調節します。例えば、チャンネル2に接続したパッドを叩いているのに、チャンネル1の音も鳴ってしまう場合は、チャンネル1のスレッシュولدを上げます。

レンジ：0～99

インプット・センス

パッドのトリガー信号出力と本機のトリガー入力レベルを適正に合わせる時に、このパラメーターで調節します。調節方法は、パッドを最も強く叩いた時に、インプットトリガーレベルの赤のLEDが少し長めに点灯する状態になるまでインプット・センスを上げ下げします。

レンジ：0～99

MIDI操作を行う

本機の4つのチャンネルは工場出荷時には、MIDIノートナンバー36、38、59、47にそれぞれ対応するように設定されています。

これは、ジェネラルMIDI規格(GM)で規定されている、バスドラム1、スネアドラム1、ハイタム1、ミッドタム1のノートナンバーと対応しています。もちろんこれ以外のノートナンバーに変更することもできます。詳しくは、本面左側にある「MIDIノート」をご参照下さい。

メモリー内容をコンピュータに保存する

MIDIシステム・エクスクルーシブ・ダンプ機能を使用して、本機の個々のプログラムデータを、または本機全体のプログラムデータをコンピュータに保存することができます。ダンプデータの保存は、シーケンス・ソフトなどにレコーディングする方法で行います。また、MIDIデータの受信、保存、送信ができるフリーウェアのMIDIアプリケーションも多数あります。

☆Windowsユーザーの方には、*MIDI OX (www.midiox.com)*が、Mac OSユーザーの方には、*Snoize ProductionsのSysEx Librarian (www.snoize.com)*がご利用いただけます。

- 本機のMIDI OUT端子とコンピュータのMIDIインターフェイスのMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続し、受信側のソフトが受信可能な状態であることを確認します。

- (SHIFT) ボタンを押しながら、ディスプレイに「ONE」または「ALL」が表示されるまで(PROG DUMP) ボタンを繰り返し押しします。

「ONE」はその時選択したプログラムのデータ、「ALL」は本機にメモリーされている99個の全プログラムになります。

- (PROGRAM) ボタンを押すとデータの送信が始まります。送信が終わると、ディスプレイに短い時間「OK」と表示されます。

- 受信したアプリケーションにデータが入っているかどうかを確認し、そのファイルに分かりやすい名前を付けて保存します。

- データを送信しても、本機のメモリー内容には影響を及ぼしません。

MIDIダンプを受信する

- コンピュータのMIDIインターフェイスのMIDI OUT端子と、本機のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続し、コンピュータのシーケンスソフトやMIDIアプリケーションが送信可能な状態であることを確認します。

- 送信を開始します。本機では、本機に対応したMIDIシステム・エクスクルーシブ・メッセージが入力されると自動的に受信動作に入ります。

送信したシステム・エクスクルーシブ・メッセージに99個の全プログラムが入っている場合、本機のプログラム・メモリーは全て送信されたデータの内容に書き換わります。

但し、送信開始時にプログラムのエディットをしていた場合、エディットパッドに入っていたデータはそのまま残ります。

送信したシステム・エクスクルーシブ・メッセージがプログラム1個のみの場合、そのデータは本機のエディットパッドに入ります。このプログラムを残しておきたい場合は、改めてそのプログラムを保存する必要があります。

本機のOSをアップデートする

本機の上オペレーティングシステム(OS)は、機能向上のためにアップデートされることがあります。

OSアップデート作業は、Nord Drumウェブサイト(www.norddrum.com)から新しいOSをダウンロードし、コンピュータ用の専用ユーティリティを使用してMIDIデータを本機に送信する方法で行います。この専用ユーティリティは、Windows、Mac OSXどちらにも対応しています。

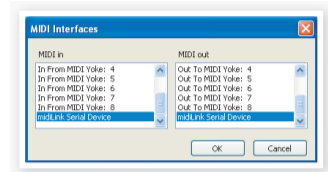
なお、この作業にはコンピュータに接続するMIDIインターフェイスが必要となります。

- 本機 のMIDI IN端子とMIDIインターフェイスのMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

- 専用ユーティリティをダブルクリックして起動させます。

- Windows版の専用ユーティリティは、ダウンロード時にはZIP形式で圧縮されていますので、ご使用になる前にWinRARなどのソフトで解凍しておきます。

- 使用するMIDIポートを選択します。



専用ユーティリティには、接続されている本機の現在のOSバージョンが表示されます。



- Updateボタンをクリックすると、新しいOSが本機に転送されます。

ウェブサイト

OSアップデート情報や、新たな音色プログラム、その他の情報が満載のNord Drumウェブサイト(www.norddrum.com)にぜひお立ち寄りください。

4 付録

ファクトリー・サウンド・リスト

本機の99個のプログラムをリストにまとめました。P80～P99は空のプログラムで、ファクトリープログラムを上書きしてしまうことなく、新たに音作りしたプログラムを保存することができます。

本機のメモリー内容の全てをMIDIシステム・エクスクルーシブ・メッセージとしてコンピュータに転送し、保存することができます。手順等の詳細につきましては、左コラムをご参照下さい。また、ファクトリープログラムのMIDIシステム・エクスクルーシブ・ファイルは、Nord Drumウェブサイト(www.norddrum.com)からダウンロードすることもできます。

番号	スタイル	プログラム名	カテゴリ
P1	Retro	Monologue	Drums
P2	Real	Classic Vistalite	Drums
P3	Retro	Blue House	Kit
P4	Real	Brushford	Kit
P5	Real	Bebop delux	Drums
P6	Retro	Always Hip Hop	Kit
P7	Real	Gran Casa Timp	Drums
P8	Retro	Thanx to Burgees	Drums
P9	FX	Reso Sweep	Perc
P10	Retro	Vince Gate	Drums
P11	Retro	UnoDosKickHat	Kit
P12	Real	Spectrum	Drums
P13	Real	Ateiste	Drums
P14	Retro	Noisy Barrel Orchestra	Drums
P15	Retro	Higgins Particle Hat	Kit
P16	Retro	Clothed Funk Kit	Kit
P17	Ethno	Komal Melodic	Perc
P18	Ethno	Lalalatin	Perc
P19	Retro	Bend Down Disco	Perc
P20	Retro	Flying Dront Circus	Kit
P21	Ethno	Tribunal	Perc
P22	Real	King Kong Karma	Kit
P23	FX	Training with Komal	Perc
P24	Retro	Tiny Tiny Pic	Kit
P25	Ethno	Red Beat	Perc
P26	Retro	beatPerlife	Kit
P27	Retro	Piccolosim	Perc
P28	Real	Acoustic Flower King	Kit
P29	FX	Apostasy Steam Noise	Perc
P30	FX	DoReMinor Melodic	Perc
P31	FX	Must Bend Tolotto	Drums
P32	Ethno	Sambalasalala	Perc
P33	FX	Kiss the Click	Perc
P34	Retro	Sweep Type 4tonight	Drums
P35	FX	Noise Click Trap	Kit
P36	Real	Bend Timpanic	Drums
P37	Retro	doddodrum	Kit
P38	FX	Fast Sweep Melodic	Drums
P39	Ethno	Bella Balinese	Perc
P40	FX	Noisy Royalty	Drums

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。なお、保証書は再発行致しませんので紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路など)のように機能維持のために必要な部品の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターにお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったらまず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。それでも異常があるときはお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING! この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。 This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal original serial number will disqualify this product from warranty protection.
--

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 03 (5355) 5056
●サービス・センター：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 TEL：03 (5355) 3537

--

輸入販売元：KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口 4015-2
WEB SITE: http://www.korg.co.jp/KID/index.html

KORG	本社：〒206-0812 東京都稲城市矢野口 4015-2 URL: http://www.korg.co.jp/
-------------	--

©2012 KORG INC.

Printed in Japan